



## ●名古屋の中小企業、頑張ろう！

公益財団法人名古屋産業振興公社

副理事長 松尾 隆徳

新年明けまして、おめでとう。今年のお正月は、今までと異なり、かなり明るい、華やいだ雰囲気でお迎えされた方が多いかと存じます。昨年の、出雲大社、お伊勢さんのご遷宮で神様も装いを新たにされ、ご威光も日本中のみならず、世界中にゆき渡り、まさに大祓いがなされました。政治の世界では、日本の再建はまず経済からと、アベノミクスに象徴される諸政策が実行に移され国力回復への筋道が示されました。更に七年後の東京オリンピック・パラリンピックも決定。まさに日本の行く先には光が灯りました。

すばらしい環境が整った中、競技に参加する各種の選手団（各業界・各企業）の実力が発揮されるか否か、根性があるかどうか、日本再建はかかって来ました。名古屋・愛知の選手団・企業は中日ドラゴンズではダメ。東北楽天ゴールデンイーグルスであることが要求される時です。

何事にも、「心」・「やる気」・「心がまえ」が先行します。平成26年は個人も企業も社会も幸せになる年です。そのチャンスです。「心がまえ」・「気がまえ」を先行させましょう。自ら汗を流し、幸せなるための努力をコツコツと積み重ねる「気がまえ」が第一です。「心」の通りに環境が変わり、幸せがやって来ます。

人を頼るのは止めましょう。人のせいにするのは止めましょう。努力と成果は比例する。良い努力が必要。（私達は悪い努力を知らず知らずのうちにやってた。）成果に満足できなければ、更に良い努力を実践するだけ。理屈も何も無い。正しいこと、美しいことを実践するだけです。

朗らかな気分で、喜んで、余分な心配などせず、ひたすら前進。理屈は後

からついて来る。正しい、美しいことを実践する。気付いたらすぐ行こう。悪いと思ったらすぐ止める。朝令暮改で良い。これが中小企業のたくましさ、強さです。

めざす方向は自分も救われ、相手も救われるもの、近江商人の「三方よし」です。自分もよし、相手もよし、世間もよし。

世のため、人のために、社会に役立つ企業、事業を推し進める。これを経営理念とし、不変のものとして、しっかり心に落とし込み、時代の変化に対応する技術・技能を臨機応変に変化させる戦略、この組合せ、バランスが大切です。

技術・戦略は新分野、新製品を切り開きますが、それを持続させ、継続させ、幸せに繋げるのは理念です。

六番町の市工研の知財を活用し、この地方の経済を底支えするのが、私達、名古屋産業振興公社の賛助員集団であります。市工研のみならず志段味のプラズマ技術も活用しましょう。私達の努力が名古屋、愛知の産業を元気にするのは。社会の足手まといでなく、社会改革の先鋒が私達だと自覚を深め、旗をしっかりと立てましょう。

以前は異業種交流と称されましたが、異業種連携で保有する技術・武器を多面化し、異なる発想から生れる予想外の戦略、知らないことが武器になる時代と考えよう。

日本の周辺諸国は益々発展します。需要はドンドン海外に。国内に残るのは、平和ボケした、低意欲の高齢者だけ、若い人はITボケの守銭奴ばかりとなつては、日本は滅亡です。先輩達の努力をしっかりと受け継ぎ、次なる発展をめざす役割が、名古屋の中小企業にありと受けとめ、頑張ろう！